

「苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略（概要版）」

人口ビジョン H27 (2015) ～ H72 (2060)

【人口減少の現状(国立社会保障・人口問題研究所の推計)】

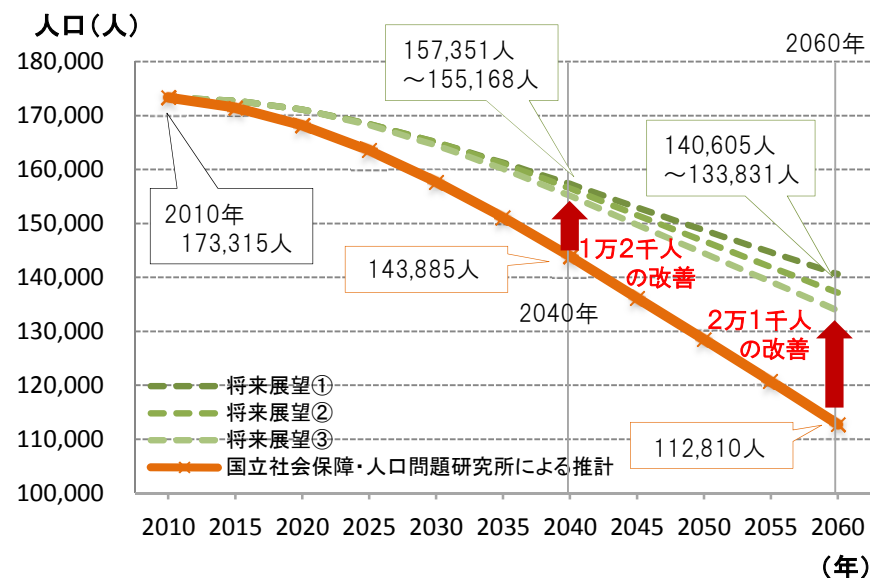
- ◆ 平成22(2010)年に17万3千人であった本市の人口は
 - ⇒ 平成52(2040)年には、14万4千人となり、約3万人の減少
 - 平成72(2060)年には、11万3千人となり、約6万人の減少

【本市の課題と方向性】

- ◆ 就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。主な転出先は、札幌市や首都圏である。
 - ⇒ 市内の雇用環境を維持・向上、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。
- ◆ 現在の合計特殊出生率を維持しても人口は増えない。若い女性人口は減少傾向にある。出生数が増えない主な理由は、子育ての経済的負担である。
 - ⇒ 子育て・教育しやすい環境を整備し、子育ての経済的負担感を減らすことで、結婚・子育て世代(特に女性)の転入を増やし、合計特殊出生率を向上させる。
- ◆ 活気がない、交通利便性が悪い、PRするものがないといった声上がるなど、地域コミュニティの活性化や生活利便性が向上といった生活環境の改善が課題である。
 - ⇒ 生活環境を改善、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やU/Iターンを増加させる。
- ◆ 今までの人口の維持は、製造業などの企業誘致の影響が大きく、人口減少局面をむかえる中で、さらなる競争力向上が必要である。
 - ⇒ 国際的な競争力を持つ市として、誘致活動を充実させ、企業誘致をはじめ、民間投資を呼び込む。

【人口の長期展望】

- ◆ 自然動態
 - 合計特殊出生率を段階的に引き上げる。
(2040年までに1.8～2.07)
- ◆ 社会動態
 - 各世代の転入転出を均衡させる。
 - さらに、20代、30代については、1%の転入超過を目指す。



◆ 人口の将来展望

- 平成52(2040)年に、約15万人を維持する。
(1万2千人の減少幅を改善)
- 平成72(2060)年に、約13万人を維持する。
(2万1千人の減少幅を改善)

基本目標 1 地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用拡大を実現

【数値目標】

新規雇用創出数
実績値 — ⇒ 目標値(2019) 延べ300人

管内学生の管内事業所就職割合
実績値(2014) 53.49% ⇒ 目標値(2019) 60%

【具体的な施策】

- 若者の市内就職の促進
- 学生と地元企業との交流・連携機会の創出
- 苦小牧における創業促進

基本目標 2 子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備

【数値目標】

合計特殊出生率
実績値(2008～2012) 1.51 ⇒ 目標値(2019) 1.60

子育て環境や支援の満足度(5段階評価)
実績値(2013) 2.80 ⇒ 目標値(2019) 3.3

子育て世代の女性の労働力率
実績値(2010) 62.2% ⇒ 目標値(2019) 66.7%

【具体的な施策】

- ワーキングマザー＆ファザーの子育て応援
- 子育て支援・保育サービスの充実
- 苦小牧の地域資源を活かした体験学習の推進

基本目標 3 地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

【数値目標】

転入者数
実績値(2014) 5,958人 ⇒ 目標値(2019) 6,500人

観光入込客数
実績値(2014) 186万人 ⇒ 目標値(2019) 218万人

「苦小牧は住みやすい」と回答した人の割合
実績値(2015) 23.3% ⇒ 目標値(2019) 30.0%

【具体的な施策】

- 苦小牧出身者への継続的な情報発信の拡充
- 移住者の受け入れ体制の充実
- とまこまいライフスタイルの確立
- 縁結びコーディネート機能の設置
- 郷土の魅力を伝える活動の推進

基本目標 4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

【数値目標】

新規企業進出件数(5年間累計)
実績値 — ⇒ 目標値(2019) 20件

広域連携による共同事業の新規実施件数
実績値 — ⇒ 目標値(2019) 延べ10件

【具体的な施策】

- 立地企業への支援強化
- 多様な産業分野の企業誘致の促進
- 広域連携事業の推進